



日本医療検査科学会第58回大会

HITACHI

共催ランチョンセミナー 2

機器データが切り拓く 臨床検査の可能性

一日立ハイテクがデジタルでめざす **予測** **連携** **精度** の高度化—

2026.

10.8 **木** 12:00~12:50

第3会場 レセプションホール

神戸国際会議場

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1

座長

国立大学法人 浜松医科大学医学部附属病院
検査部・臨床検査技師長

山下 計太 先生

演者

株式会社 日立ハイテク ヘルスケア事業統括本部
麻生 大輔

※ 講演内容は予告なく変更となる場合がございます。予めご了承ください。

学会参加登録／整理券のご案内

9月15日までの事前参加登録をおすすめします。

- ・ランチョンセミナーの事前予約が可能
- ・ネームカード、整理券の事前発送
- ・JACLaS EXPOも同時登録

詳細はこちら▶



株式会社 日立ハイテク

機器データが切り拓く 臨床検査の可能性

一日立ハイテクがデジタルでめざす「予測」「連携」「精度」の高度化一

検査室における「医療を止めない」ための デジタルソリューション構想について提案する

近年、少子高齢化の進行により検査需要が増加する一方で、生産年齢人口の減少に伴う人材不足が深刻化しており、臨床検査分野では業務負荷の増大という構造的な課題が顕在化している。さらに、機器トラブルによる測定停止、ワークフローの複雑化による検査効率の低下、検査異常値の原因特定の困難性といった、発生時には検査を止めかねない重要な課題（ミッションクリティカルな課題）が存在する。

これらの課題に対し、日立ハイテクは日立グループが掲げるHMAX™ for Healthcareを基盤とし、「現場（OT）×IT×AI」の融合により、臨床検査におけるミッションクリティカルな課題解決に向け、「予測」「連携」「精度」を軸とした各種デジタルソリューションを提案する。

本構想では、機器データをエッジ（検査室内のクローズド環境）、 およびクラウド環境において統合的に収集・解析し、 AI技術を活用する。

「予測」では、予兆保全（CBM: Condition Based Maintenance）による機器故障の未然防止を実現する。

「連携」では、ミドルウェアにより検査室内のシステムおよび装置データを一元化し、業務効率化とワークフローの最適化を図る。さらに、「精度」では、検査プロセスの異常検知と検査値の信頼性向上に加え、検査データから疑われる病態の可能性を提示することで、追加検査の提案や見逃し防止に寄与する仕組みを構築する。

そして、AIによる検査技師の意思決定支援により、医療従事者や医療機関間の差異に依らない均質な検査運用を可能とする。

以上より、採血から報告までの検査プロセスの最適化を通じて、検査の継続性と信頼性を高い水準で両立することで、検査室全体のパフォーマンス向上にとどまらず、医療提供体制全体の高度化に貢献する。

JACLaS EXPO 2026 日立ハイテク ブースのご案内

10月8日（木）～10月10日（土） 神戸国際展示場 2号館1F

装置の稼働データや検査データを活用した故障予測、予防保守、運用最適化、AIによるデータ解析など、臨床検査室の安定運営と医療の質向上に貢献する最新ソリューションをご紹介します。

展示会特集ページ▶



●臨床検査に携わる方向け会員制サイト

LabCircle（ラボサークル）

●最新情報をお届けします

医用・ライフサイエンスメールマガジン



▲
詳細はこちら

株式会社 日立ハイテク

本社 〒105-6409 東京都港区虎ノ門一丁目17番1号 虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー TEL (03) 3504-7211

